



ちょっとお茶にしませんか

第1話

## 鉄好人海外行

あいさつひとつで  
How are you?  
No good, thank you.

山本誠志

Masashi Yamamoto

日科情報株式会社 (元)住友金属工業(株)

How do you do?

How are you?

読者の皆さんには、はじめてお目にかかります。

この欄では、鉄の国際会議などで海外に向いた時に経験した「ちょいとしたこと」を紹介していきたいと思えます。

あいさつでは、英語で「How are you?」をよく使いますね。「I'm fine, thank you. And you?」と応ずるのが定番です。そして「I'm fine, too」と続けます。

英語で話すひとは、みんなみんな、いつも機嫌も体調もいいのでしょうか。ときには、悪いときもあるでしょうに。あいさつとはこんなものなのでしょうね。こんな疑問をもつひとは社会常識に欠けていると思われるかも知れませんが。

私も通り一遍のあいさつを交わしてきました。

あるとき、いたずら心が私にささやきました。「自分なりに、対応してみては?」と。よし、やってみよう。タイミングを待っていました。

ある会議で旧知の英語人のMr. X (英国のひとでなくても、英語を話すひとを英語人と呼んでいます)に会いました。定番の「How are you? Mr. Yamamoto」と声を掛けられました。待っていました。「No good, thank you. And You?」と応じました。

そのときのMr. Xの表情はいまでも忘れられません。一瞬、狐に包まれた状態でした。まわりの人たちもキョトンとしていました。「Why? What's happen?」とききました。「日本からの飛行機で飲み過ぎて、気分がすぐれない」と言うと、「It's no good.」と納得してくれました。このやりとりで、その場は大いになごみました。

後日談があります。

それ以降、彼にいつどこで会っても、必ず「How are you? Mr. Yamamoto. Are You drunken?」とあいさつされるようになりました。まわりのひとは、なんだこのあいさつは?という顔つきになります。Mr. Xがいきさつを講釈します。この話がひろがり、私はアル中とはいわれないまでも、かなりの飲兵衛のようなイメージをもたれてしまいました。

そのお陰?で、ディナータイムには、いろんな国の飲兵衛の紳士達が私のテーブルに集まるようになりました。話題も酒の話から始まり、それなりの話にまで展開します。お国自慢も含めて、大いに盛り上がります。そうこうするうちに、クイズをしようと提案するひとが出てきました。結構乗りのいい連中です。即座にやろうやろうとなります。

まず全員がコイン一枚をテーブルの上に出します。出し終えたところで、誰かが問題を出し、それに答えるのです。国をまたがっているような質問が出てきます。出題者以外で答そのものを知っているひともいます。そのひとはここで紳士的にゲームから降ります。コインも下げます。そこで、正解が示され、当たったひとはすべての参加者のコインをもらえるのです。一人ずつが出題者になって一巡します。

どんな問題か一つ紹介しておきましょう。

Mr. Xの出題は「私の先祖の出身地はどこでしょうか」というようなたわいのない問題です。

回答者達は、顔立ちからみてどうか、名前のスペルは?とか、話す英語のなまりはどうか、勝手な議論が行われま。最終の答は各々がします。正解のない場合はコインを下げ、持ち越しはしません。

そして、次に移ります。

しかし、出題に注意しないと、何問も続いて誰も正解できずに白けることもあります。程々の話題を出題するのがポイントです。

賭事の嫌いなひとは、ゲーム終了後のコインの行方が気になるでしょうね。

ご安心の程。テーブルを離れるときに、チップとして置いていきます。紳士のたしなみです。飲み過ぎることもなく、話題に事欠くこともなく楽しくコミュニケーションが図れます。

あいさつ一つで、こんなに国際交流の輪が広がるとは思っていませんでした。

会話も「Yes, but」で始めるか、あるいは「No, but」で始めるか、いずれが理解されやすいかを「ちょいと」考えさせられたお話でした。